

平成30年10月16日

弥富市長
服部 彰 文 様

弥富市総合計画審議会
会長 釜田 公 良

第2次弥富市総合計画答申にかかる附帯意見

第2次弥富市総合計画（基本構想・基本計画）案につきましては、これまで本審議会において慎重な審議を行ってきました。本計画は、市民ワークショップや学生による政策提言といった市民協働の取組みのもと、市職員の皆さんが自ら素案から策定し、苦心して成案をみたものとなっています。審議会の過程において出された種々の意見についても真摯に受け止め、推敲及び修正に反映していただきました。

弥富市と本審議会の議論は、当初より一貫して進捗管理が必須であり、本計画の実効性を担保するため、着実な進行管理を実施することを前提として審議してきました。そこで、本審議会は答申にあたり以下の要望を附帯意見として提出します。

記

- 1 この進行管理は、第2次弥富市総合計画を真に実効性のあるものとするため、定期的に見直し、修正をしつつ、10年間で目指す弥富市の将来像に近づけることを目的として行うこと
その際、基本計画と実施計画との一貫性を確保するため、目的と手段の体系における紐づけができるようにすること、市民協働による計画であることの意義を失わないため、市民による定期的なチェックが行われること、及び職員の参加意識を醸成し、日々の業務の中で常に上位計画を参照することで、目的と手段の体系を意識しつつPDCAサイクルマネジメントを実践することができるようなものとする
- 2 上記の趣旨に鑑み、進行管理の過程においては職員による内部評価に加え、市民による外部評価の仕組みと、主に若手職員による組織横断的な研究会及び政策提言会を設け、進捗状況の評価や次期実施計画の修正に反映するなど活用すること
- 3 上記の目的、趣旨などを踏まえ、今後の進行管理のあり方、仕組みづくりについて審議するための組織（委員会、ワーキンググループなど）を設置すること